

〈アートカードみえ〉シリーズの誕生

〈アートカードみえ〉は、三重県立美術館所蔵の作品図版を素材にした美術鑑賞支援教材のことで、県内の小中学校、盲・聾・養護学校で活用されることを想定し、平成15年度に作成したものです。

美術館には、上記の学校関係だけでも、年間50前後の団体が訪れ、企画展・常設展の鑑賞を行っています。本物の作品に出会う体験は、それだけでも幸せなことと思われそうですが、その機会をより充実したものにするためには、鑑賞に関する何らかの事前学習があってもよいのではと考えていました。多くの先生や子どもたちに利用してもらえるもの、美術館での鑑賞の事前学習用に使えるもの、更には美術館を頻繁に訪れることができない学校の子どもたちにも見て楽しんでもらえるものという思いから、前述の貸し出し教材をつくってはどうかという発想が生まれたのです。

作成に際しては、内容の検討、活用方法の研究の他、地道な諸作業も含め、多くの課題がありました。文化庁の「芸術拠点形成事業」の支援を受け、いくつかの小中学校・養護学校の賛同を得て実行委員会を組織し、日頃から美術館の普及活動に様々な形で協力しているJAMM研究会の方々、及び県立盲学校の先生に「協力員」になっていただきました。



〈アートカードみえ〉スタンダードセット

主に土・日曜日を使つての会合は、7月から3月までの9か月間で、担当別のもも含めて30回余、参加協力員は延べ268名にものぼりました。

このシリーズには、アート・ゲームを楽しみながら作品鑑賞へのアプローチができる「スタンダードセット」、特定の作家や作品を対象とする鑑賞学習に適した「学習カードセット」、低年齢の子どもたちも楽しめる「アートパズルセット」、触覚を使った鑑賞学習や視覚障害のある子どもたちの鑑賞学習を補助するものを目指して作成した「触ってセット」の4種類があり、触ってセットは「鑑賞ファイル」「はめ込みパズル」「素材コレクション」の3セットで構成されています。リサーチ活動については今後の課題ですが、この〈アートカードみえ〉のシリーズが、多くの学校で活用され、子どもたちが美術に親しむと

ともに、美術館がこれまでよりも身近なものになれば、と願っています。(Se)

※JAMM研究会：Joyfui Art Museum Society, Mieの略。美術鑑賞教育や美術館教育の研究を目的として1992年に発足した。会員の多くは小中学校・養護学校等に勤務。毎月2回程度の会合をもち、展覧会のワークシート作りをはじめ、子どもたちを対象とした美術館の教育普及活動に、様々な形で協力・尽力している。

「アートカードみえ 活用事業」実行委員会の活動風景